

文字摺通信

第 94 号

2025年 8月15日

発行:文字摺歴史文化社

名工野田平業の技巧、 透かし彫りの鞠

野田平業（白河市出身）の狛犬を見るため、八島田の本庄八幡神社へ行ってきました。八島田の吉野御殿と呼ばれた一町歩の屋敷地の前を右折すると本庄八幡神社です。狛犬は、拝殿前に右に仔犬が戯れる阿吽の阿像、左に透かし彫りの玉で遊ぶ阿吽の吽像が建っていました。白河市の鹿島神社などでは、左に仔犬、右に鞠が多かったと記憶していますが、ここはこの並び

でした。狛犬の顔の表情も個性的ですが、何と言ってもすごいのが透かし彫りの玉。よくみると玉の中にもう一つ玉が入っているのです。透かし彫りだけでもすごい技巧ですが、透かしの間から鑿を入れて中

にもう一つの玉を削る、超技巧です。台座に銘文がありました。「大正十二年春一月 吉野政子」「石城白河 刻師 野田平業」と読めます。奉納者の吉野政子は吉野一族の一人と思われるが、当時の当主第10代吉野周太郎（明治4年1871～昭和12年1937）は白河の素封家伊藤家から養子に入った関係で、白河市の石工野田平業にこの狛犬の制作を依頼したのであろう。野田も自分の肩書を石工ではなく、「刻師」と名乗っているのは、まさに鑿で刻んでいく超絶技巧の持主としての自負であらう。前号でお知らせした湯野愛宕神社の狛犬の鞠が壊れており、野田の技巧を見ることができなくなっており、この八島田八幡神社の狛犬の鞠は大切に保存したいものである。

